菊千代、大関獲りならず

「どうも動きにキレがない」

今場所、大関獲りが期待された関脇・菊千代だが五勝六敗に終わった。

八勝なら大関当確と言われて注目された今場所、いきなり序盤から躓いた。喉輪押しのスペシャリストでありながら、なかなか喉輪が決まらない。中日六日までにすでに三敗を喫して後がなくなった。そして迎えた七日目、相手は小結杉錦。この負けられない一番、菊千代の右の喉輪が入ったもののそこから足が出ず、相手の引き技にばったりと前に落ち、こうして大関昇進の夢はあっけなく潰えた。

師匠の万寿山親方は菊千代について「どうも動きにキレがない。プレッシャーを感じて相撲が萎縮しているようだ。ああ見えて、結構繊細なんだ。」

十日目には快進撃を続ける紅桜のストッパー役を託されたが、返り討ちにあって初土俵以来初めての負け越し、関脇からの陥落が決まった。険しい表情を浮かべながら支度部屋に戻った菊千代だが、ずっと無言を貫き無念さを噛み締めていた。

決して弱い菊千代ではない。今場所も横綱紫電改、大関大木戸を得意の喉輪押しで撃破している。つまり、力は十分あるのだ。

「これで終わったわけじゃない。必ず這い上がりますよ。」こう言って支度部屋を後にした。

来場所もひとり大関の状態が続く。協会としては喉から手が出るほど大関が欲しいのだ。

菊千代にはこのチャンスをぜひとも活かしてもらいたいものだ。

紅桜に敗れ負け越しが決まった菊千代

「でんどくん3号」が完成！

当協会自慢の電動式土俵。これまで使用しているのは「でんどくん2号」だが、実態は1号から改良を重ねてきたもので、細部を見るとあちこちに試行錯誤の跡があってルックスがよろしくない。

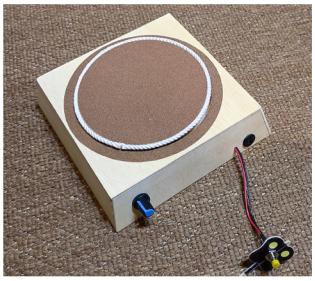
「そろそろちゃんとした決定版を作ろうよ」という井上相談役の鶴のひと声で、「でんどくん3号制作プロジェクト」がスタートした。

今回の目玉は、ワイヤレススイッチの導入！　手元のリモコンスイッチで土俵の振動を動作させることを目論んだのだが、結論から言うと今回は実現には至らなかった。どうやら、amazonで購入したワイヤレスリモートリレースイッチではモーターを駆動させる電流が不足していたらしく、スイッチを押してもモーターが反応しなかったのだ。モータードライバを使えば解決できそうなのだが、まだまだ時間が掛かりそうだということで、今回はワイヤレス化は諦めた。

新しく完成した土俵はルックスはすっきりし、静音化もほぼ満足できるレベルになったが、結局、「でんどくん2号」のマイナーチェンジになってしまった。

「でもね、もうひとつ野望があるんだ。アルデュイーノ（Arduino）っていうマイコンボードがあってね。それを使うとモーターの回転数をプログラムできるらしいんだ。つまり、立ち会いはもっと激しくしたり、強弱をつけたり、土俵の動きに変化をつけることができるんだ。これはスゴイよ！　もし実現できたら電動式土俵は新次元にレベルアップするだろうよ！」

すでに解説書を発注したとのことで、ともすれば単調な相撲になりがちだった電動式土俵も大きな進化を遂げるかもしれない。井上相談役の電動式土俵に対する情熱は果てしがないようだ。



→新しく完成した「でんどくん3号」。ただし、大きな仕様変更はなし。見た目がスッキリしたことと静音化が実現したくらいのマイナーチェンジ。今場所幕内戦の四日目から使用開始。

坂越海が引退

現役最古参で規格改定前の力士（オールドタイプ）の生き残りだった元関脇坂越海（西前頭十一枚目：文の里部屋）が現役引退を表明した。

「先場所、井上相談役から『もう辞めれば？』って言われてずっと気持ちが揺れ動いていた。でも今場所の相撲で自分の限界を悟ったよ」と引退の理由を語った。

坂越海は第四回本場所が初土俵。関脇を三場所、小結を二場所務めた。引退後は年寄「友砂」を襲名。友砂部屋の師匠として後進の指導に当たることになった。

また、元関脇大入道（東前頭十枚目：大乃森部屋）、元小結万福丸（東前頭十四枚目：紫山部屋）も同じく引退を表明し、それぞれ鹿賀乃戸親方、神戸親方として、友砂一門（旧練馬グループ）所属の部屋の師匠に就任することが決まった。

これで、二枚鑑札だった友砂部屋の徳鵬、鹿賀乃戸部屋の鹿ヶ岳は親方業兼務から開放され、土俵に集中できる環境が整った。

力士の「紙」が変更に

「紙が変われば、世界が変わる」

日本紙相撲協会との交流が始まり、その影響が少しづつ当協会にも及ぶようになってきている。

そのひとつが新弟子スカウト活動（つまり、紙力士の作成）だ。これまで当協会の力士にはダイソー製のケント紙が使われてきた。ケント紙はトナーの乗りが良く色鮮やかな力士が作れ、電動式土俵との相性も良くて広く使われてきた。

ところが日本紙相撲協会からやって来た力士は、「マットサンダース」という厚手の水彩紙で、重量があって弾力も強い。相撲を取らせてみるとケント紙の力士はどうしても体力負けしてしまうのだ。

すでにマットサンダースは販売が終了しており、代わりにヴィファール水彩紙（240g／㎡）で力士を作り始めたが、なかなか満足のいく力士ができなかった。

「踵の角度、上手の高さ、腕の太さ、いろんな面でバランスを取るのが難しい。でも、うまく作ればあちらの力士と互角に取れる力士ができる（かもしれない）」（指導教育部長の西の国親方）

「紙が変われば世界が変わる。それが紙相撲というもの。もう後には戻れない。前に進むだけですよ」

ダイソー製ケント紙とヴィファール水彩紙

東西東西

○関脇　天狗岳（六勝五敗）
「何とか勝ち越せた。やっぱり上位は強い人ばかり。上（大関）を目指すならもっともっと強くならないと。殊勲賞はうれしかったです。」

○前頭三　如月（六勝五敗）
（星取が○○○○○●●●●●）
「今場所は晴れのち雨。どうしてオレの星取りってお天気になっちゃうのかな？　ま、勝ち越せたので良かったですよ。」

○前頭五　金剛力（八勝三敗）
「エレベーター力士の本領っすね。来場所は上位で大負けするってみんな思ってるでしょ？　オレもそう思ってるから。（笑）」

●前頭二　須佐の海（三勝八敗）
（前半三勝一敗から七連敗に）「仕方ないよ。横綱大関なんてみんな強いから。羅皇関なんて、当たったらバーンって跳ね返されて、気がついたら土俵の外にいたんだもん。」

●前頭六　喜久泉（二勝九敗）
「話すことは何もないですよ。」

○前頭十　北榛名（七勝四敗）
（四場所ぶりの勝ち越しに）「若い子に勝つのは気持ちいいね。オレもまだまだやれるんだって自信になるよ。」

●前頭十一　宇陀錦（五勝六敗）
「次は勝ち越さないとね。もう後がないから。え？坂越海と大入道が引退？　じゃあオレが現役最古参になってしまうのか・・・」

○前頭十五　岩天空（六勝五敗）
「初日二日目と連敗して気落ちしていたら、ウチの横綱（紫電改）が、「相撲内容は悪くないから気にするな」って声を掛けてくれたんスよ。そこから開き直ることができたんス。横綱には感謝っス。」

●前頭十一　坂越海（一勝十敗）
（場所後に引退を表明）「思い出の一番は第五回本場所の優勝決定戦ですね。雷砲関（現太刀岩親方）に負けたんですが、悔しくて悔しくて。でもそれをバネにしたから今日までがんばれたんだと思います。応援ありがとうございました。」

大松戸親方が参戦

「神戸部屋」創設

一月二十七日、井上相談役は日本紙相撲協会の大松戸親方と「あずさ珈琲店」で二時間ほど会談した。そこで大松戸親方の加古川紙相撲協会参戦が決定。「神戸部屋」を創設し、さっそく二名の力士が入門した。

会談は終始和やかな雰囲気で進んだ。大松戸親方は三十年に及ぶ紙相撲愛好家で同じ加古川市在住。持参された立派な木製の土俵、徳川さん手製の力士、数々の力士見本、詳細な記録類などを拝見し、井上相談役も貴重な知己が得られて大満足。

「近いうちにぜひ本場所の観戦にお越しください」との約束を交わして会談は終了した。

入門した力士は鳩の里と平岡。四股名はどちらも加古川ゆかりの地名から。実際に相撲を取らせてみると、下半身が根を張ったようにずっしりとした相撲ぶりで、相当な潜在力を感じさせた。井上相談役は「東西の力士交流も活発になり、当協会もますます熱を帯びてきた。ウチも強い弟子を作らないとね。手をこまねいているとあっという間に牛耳られてしまうよ！」と危機感を募らせるとともに、その顔はうれしさに高揚していた。

大松戸親方（左）と井上相談役

現代ビジネスマンへのレクイエム

「辞め時」

南出屋　念　著